

今回、初めて自主伝研に参加させていただき、風邪のために早退することとなりましたが、自分が日頃から考えてきたことをテーマとして発表し、それを皆様と話し合うことで問いとして深める機会に恵まれました。

また、他の方々がなされた発表を通じ、その問題意識に触発されるということもありました。

そのような場に参加させていただくご縁に恵まれましたのは、僧侶として伝研の会に出席させていただいたことが大きな要因に挙げられます。

しかし、ご講師の藤井慈等師がおっしゃったように、少なくとも現在の僧侶という立場は檀家の方々から区別されることで成り立っています。

「僧侶の集まりで発表するのだから、ちゃんと自分自身を問題とし、しっかりした話をしなければならない」という意識が自主伝研での私には働いていました。

それは裏を返せば、檀家さんに対して話をする時は、他人事のような内容のものでも良いということになってしまいます。

そのような差をどのようにしていくのかも、今回の自主伝研を通じ、「宗門人としての私の課題」として意識されるようになりました。